

社会技術研究開発事業  
令和6年度研究開発実施報告書

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム  
(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)」  
「すべての子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防する  
学校を中心としたシステムの開発」

山野 則子  
大阪公立大学 大学院現代システム科学研究科  
教授

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2-1. 研究開発目標 .....	2
2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン .....	2
2-3. ロジックモデル .....	3
2-4. 実施内容・結果 .....	4
2-5. 会議等の活動 .....	14
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	15
4. 研究開発実施体制 .....	15
5. 研究開発実施者 .....	17
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	19
6-1. シンポジウム等 .....	19
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	19
6-3. 論文発表 .....	19
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	20
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	20
6-6. 知財出願 .....	20

## 1. 研究開発プロジェクト名

すべての子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防する学校を中心としたシステムの開発

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2-1. 研究開発目標

本プロジェクトで達成する目標は、すべての子どもが通う学校を対象に、第1は子どもの見えない貧困やストレスをスクリーニングで把握すること。これはつまり、子どもが抱える課題によって、子どもの社会的孤立・孤独・社会的排除が生じるバリエーションを捉えることである。第2はスクリーニングの浸透によって、学校組織に変化：教師が抱えこまず方策も組織決定できるようになること。これは、例えば居場所などにつながれないという子どもの社会的孤立・孤独・排除を解消することにおいて効果的となる地域資源や人材への選択肢をAIシステムによるスクリーニングによって提示するシステムを構築することである。第3は学校として地域資源を知り活用できるようになることである。(SDGs目標1, 3, 4, 5, 10, 11, 16, 17)

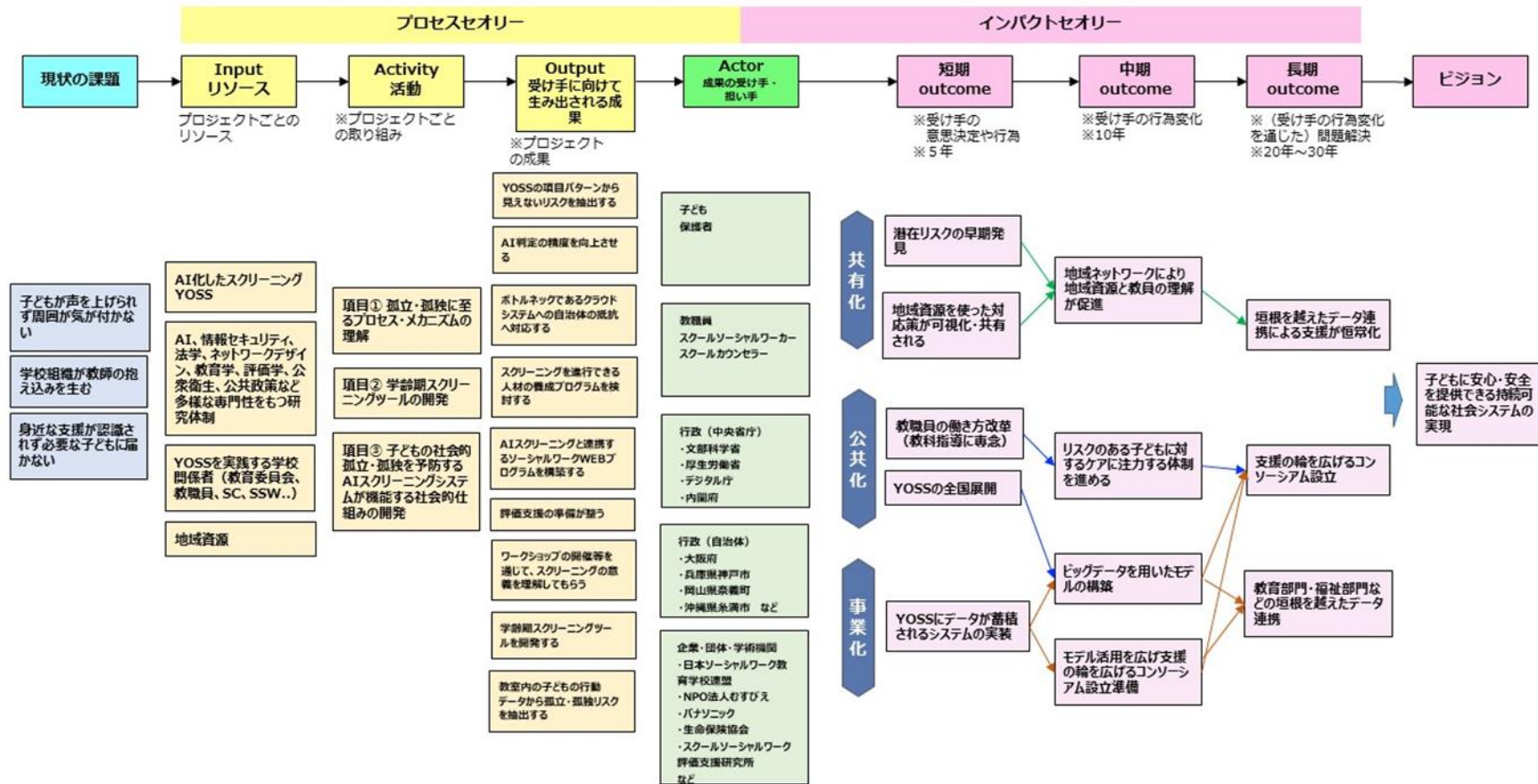
これらの目標を達成するために、Ⅰ) 学校においてAIスクリーニングの実用化、Ⅱ) 教育行政・教師・SSW・SSWのSV・地域資源のネットワークの構築、Ⅲ) バックアップするために体制構築を行う。(全体研究開発計画書「1-3.PoCの実施を含め、プロジェクトで達成する目標」から転記)

### 2-2. プロジェクトのリサーチ・クエスチョン

- Q1. 子どもの社会的孤立・孤独に至るプロセス・メカニズムの解明
- Q2. 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発
- Q3. 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

### 2-3. ロジックモデル

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム (社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築)  
 「すべての子どもの社会的孤立・孤独・排除を予防する学校を中心としたシステムの開発」 ロジックモデル



## 2-4. 実施内容・結果

### (1) スケジュール

実施項目	初年度 (2021年11月 ~2022年3月)	2年度 (2022年4月 ~2023年3月)	3年度 (2023年4月 ~2024年3月)	4年度 (2024年4月 ~2025年3月)	最終年度 (2025年4月 ~2026年3月)
<b>項目1：孤立・孤独に至るプロセス・メカニズムの理解</b> (1) 孤立・孤独に対するリスク要因間の関連分析 スクリーニング(SC)グループ				メカニズム検証	
<b>項目2：学齢版スクリーニングツールの開発</b> (1) 子どもの主観も含む項目から支援の方向性を示唆するアルゴリズムのアップデート AIグループ (2)項目の分析 SCグループ (3)教室內における子どもの行動データ②の取得と分析 センシンググループ			研究協力先検討	コロナ禍の影響を踏まえた機械学習アルゴリズムの適応  実証実験	



## (2) 各実施内容

### 当該年度の到達点①

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独に至るプロセス・メカニズムの理解

実施項目1-(1)孤立・孤独に対するリスク要因間の関連分析

実施内容：子どもがどのようなリスクを経ていくことで孤立・孤独に至るのか、その全体像を明らかにするため、熟練のスクールソーシャルワーカーにより支援が必要と判断された子ども（孤立・孤独状況にある、もしくは今後至る可能性が高いと考えられる子ども）と支援不要と判断された子どもを解析対象とし、スクリーニング項目を用いた共分散構造分析を行った。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：橋本暦和（大阪公立大学・特任講師）、佐伯厘咲（大阪公立大学・研究員）、黄健育（大阪公立大学・研究員）、山野則子（大阪公立大学・教授）

対 象：大阪公立大学・山野研究室が研究協力自治体から提供を受けたスクリーニングデータ

### 当該年度の到達点②-1

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(1)子どもの主観も含む項目からの支援の方向性を示唆するアルゴリズムのアップデート

実施内容：主観データの導入は、すでに構築しているスクリーニングAIとの整合性に問題があることや、データがまだ十分に揃っていないことから当面は見送ることとし、現在稼働中のAIの学習用データ（熟練者データ）の収集に注力した。また将来的なスクリーニングAIの拡張に備えて、モデルの学習や支援予測の実装に使用したpythonソースコードを整備した。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：中島智晴（大阪公立大学・教授）

対 象：大阪公立大学・山野研究室が研究協力自治体から提供を受けたスクリーニングデータ

### 当該年度の到達点②-2

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(2)項目の分析

実施内容：子どもの気持ちを反映する指標として、株式会社EDUCOMの「スクールライフノート」内の「心の天気」とYOSSとの連携を行い、データの収集を行った。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：山野則子（大阪公立大学・教授）

対 象：大阪府内の自治体に所属する学校の児童生徒

### 当該年度の到達点②-3

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(3)教室内における子どもの行動データの取得と分析

実施内容：IoTペーパーを用いて、運筆データと睡眠量の関係を見いだすことを検討課題とし、データの収集、ラベル付け、機械学習等を用いた分析を行った。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：黄瀬浩一（大阪公立大学・教授）

対 象：データ収集に協力いただける学校

### 当該年度の到達点②-4

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(4)子どもの学習データの分析とスクリーニングシステムへのデータ連携

実施内容：株式会社TOPPANホールディングス（以下、TOPPANとする。）と提携し、TOPPANが開発した学習支援システム「navima」に蓄積された子どもの学習データと、スクリーニングシステムで収集されたデータの関連を分析し、両システムの連携を目指した。具体的には、まず、2022年度の全国の学習データの分析結果をもとに、子どもたちの学習状況に関する懸念項目の閾値を設定した。また、並行して、本連携の協力自治体および学校を探し、アプローチを行った。本連携に快諾いただいたとある1校の1学期間の学習データとスクリーニングデータの関連を分析し、分析結果に関して協力校と意見交換を行った。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：佐伯厘咲（大阪公立大学・シニア研究員）、山野則子（大阪公立大学・教授）

対 象：1. TOPPANが2022年度に収集した「navima」データ

2. 「navima」システムを導入しており、大阪公立大学山野研究室のスクリーニング研究に協力している自治体から提供を受けた、スクリーニングデータおよび「navima」データ

### 当該年度の到達点③-1

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(1)AI機能の実装

実施内容：熟練SSWが評価したデータからスクリーニングAIモデルを再構築し、プロトタイプモデルで事前検証を行った。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：中島智晴（大阪公立大学・教授）

対 象：大阪公立大学山野研究室が研究協力自治体から提供を受けたスクリーニングデータ

### 当該年度の到達点③-2

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(2)スクリーニングに関わる評価を行う人材養成のモデル構築

実施内容：AIスクリーニングを導入する自治体のAIスクリーニング統合型効果的SSW事業プログラムの構築を進めた。評価人材の養成に関しては、試行評価調査を実施し、以下の2点を行った。

- ①これまでのSSW事業プログラムに追加した「効果モデル」の有効性を検証した
- ②プログラムが根付いていく過程、すなわち実装の程度を確認した。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：大島巖（東北福祉大学・教授）

対 象：AI統合型効果的SSW事業プログラム導入自治体の指導主事とSSW

### 当該年度の到達点③-3

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(3)スクリーニング実施者養成モデル構築

実施内容：子どもの孤立・孤独を評価するツールを機能的に活用し、スクリーニングを進めるためには、子どもの孤立・孤独の理解やスクリーニングの意義を修得した人材が必要である。そこで、スクリーニング実施者養成講座として、「YOSS®マイスター養成講座」（計2回・受講者計37名）の実施に加え、養成講座の講師を担う人材の育成を行うYOSS®トレーナー講座（受講者4名）も実施した。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：神谷直子（大阪公立大学・プロジェクトコーディネーター）、村上佐和子（大阪公立大学・プロジェクトコーディネーター）

対 象：学校版スクリーニング実施自治体及び関心のある教職員・SSW等

### 当該年度の到達点③-4

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(4)導入アプローチとネットワーク構築・プロセスモデル設計

実施内容：令和6年度は、令和5年度のコンソーシアム総会時に提示した4つのワーキンググループ構想の実現に向けた取り組みを進めた。その一環で、ネットワークのオープン&クローズ体制を明確にするため、オープン部分を「プラットフォーム（旧 コンソーシアム）」と、その傘下で会員が深い議論を行う「分科会（旧 ワーキンググループ）」に体制を改めた。分科会のうち「社会実装」については、子どもの社会的孤立・孤独の予防にCSV経営の視点を導入するために大阪公立大学 経営学研究科 小林哲教授との連携・議論を深めた。また、「サービス・ソリューション開発」「ルール制度」については、関心を持つ会員がニーズや進め方を検討する場を設けることとした。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：山野則子（大阪公立大学・教授）、松浦孝範（大阪公立大学・特任研究員）

対 象：自治体、企業、NPO法人等

### 当該年度の到達点③-5

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(5)障壁を乗り越えていくプロセスの明示

実施内容：令和5年4月に施行された改正個人情報保護法に対する自治体の対応について、新たな条例の制定内容を近隣自治体から順次、網羅的に調査を進め、まず大阪府下の自治体の個人情報保護条例などの調査を実施し、個別事例についての整理を行った。

期 間：令和6年4月～令和8年3月

実施者：宮本貴朗（大阪公立大学・教授）

対 象：近畿圏の地方自治体

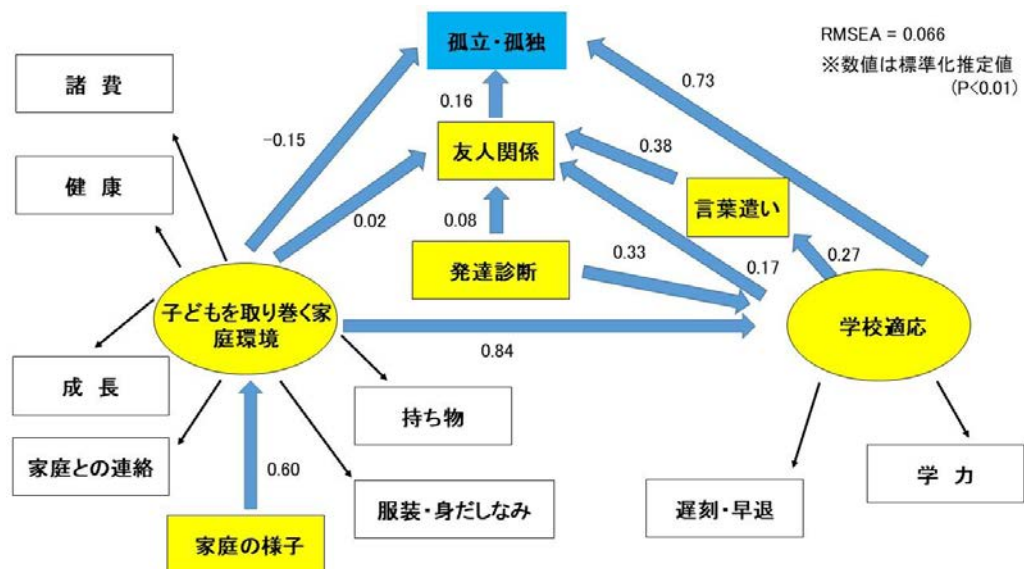
### (3) 成果

#### 当該年度の到達点①

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独に至るプロセス・メカニズムの理解

実施項目1-(1) 孤立・孤独に対するリスク要因間の関連分析

成果：「家庭の様子（複雑な家族関係）」を出発点として、「子どもを取り巻く家庭環境」や「学校適応」「友人関係」「言葉遣い」等が連鎖的に悪化していくことで孤立・孤独状態に至ることが明らかとなった。



#### 当該年度の到達点②-1

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(1) 子どもの主観も含む項目からの支援の方向性を示唆するアルゴリズム

### ムのアップデート

成果：1. 支援提案AIの精度評価

支援の方向性	予測精度 (%)
A (教職員の関与)	99.31
B (地域資源の活用)	94.43
C (専門機関の活用)	92.21

2. 2000件の新規熟練者データを収集した。

### 当該年度の到達点②-2

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(2)項目の分析

成果：令和6年10月よりYOSSと「心の天気（株式会社EDUCOMが提供するスクールライフノート内の機能）」とのデータ連携が開始し、スクリーニング項目の一つとしてYOSSに自動的に反映されるようになった。

### 当該年度の到達点②-3

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(3)教室における子どもの行動データの取得と分析

成果：筆記データを収集するため、小学生のドリル筆記データ取得に向けたNDAを締結し、データの取得を進めた。分析の結果、運筆データから睡眠量がある程度推定可能であることを実証した。

### 当該年度の到達点②-4

(目標) 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

実施項目2-(4)子どもの学習データの分析とスクリーニングシステムへのデータ連携  
成果：

- 2022年度の全国の学習データの分析の結果、正答率や学習時間は正規分布に近づき、下位25%および中央値の半分のラインに満たない子どもたちの学習状況を捕捉することができた。また、正答率や学習時間以外にも、子どもたちの学習や家庭生活に関する懸念事項が見つかり、タブレット端末での家庭学習データが教育のみならず福祉にも活用できる可能性が見いだせた。
- 実証校1校での1学期間の学習データとスクリーニングデータの関連を分析した結果、学習データとスクリーニングデータの関連が確認されると同時に、教員によるスクリーニングだからこそ発見できた児童生徒、家庭での学習データだからこそ発見できた児童生徒がいることが明らかとなった。データ連携に際し、どちらかのシステムで代替するのではなく、教員によるスクリーニングとタブレット教材による学習データの双方を活用することで、より広範囲の子どもたちの課題に向き合うことができる可能性が示唆された。

### 当該年度の到達点③-1

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社

### 会的仕組みの開発

#### 実施項目3-(1)AI機能の実装

成果：熟練SSWが評価したデータからスクリーニングAIモデルを再構築し、プロトタイプモデルで事前検証を行った結果、使用に耐えられることが確認された。また、このAIモデルを利用したエキスパート育成支援ツールの開発にも着手した。

### 当該年度の到達点③-2

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

#### 実施項目3-(2)スクリーニングに関わる評価を行う人材養成のモデル構築

成果：試行評価調査により、以下の結果が得られた。

- ・実践と成果の結びつきを可視化し、SSWerの強みが可視化できた。
- ・自身の支援と他のSSWerのおこなう支援を比較し、自身の実践を振り返ることができた。
- ・協働型評価の取り組みが教育委員会担当者とSSWerのよりよいチーム形成に有効であることが示された。
- ・評価活動への参加が効果的SSW事業プログラムを検証するために不可欠であることが明らかとなった。
- ・協働型評価を進めることで、SSWerが自身の取り組みの全体の成果へのつながりを把握でき、互いの考えや意見を尊重できる機会が確保され、プログラムの関係者とともに計画を立てる機会も確保されるなど、組織への良い影響が確認された。

### 当該年度の到達点③-3

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

#### 実施項目3-(3)スクリーニング実施者養成モデル構築

成果：YOSS®マイスター講座後のアンケートから、次年度開催の講座の参考となる以下の意見が聞かれた。

- 「未然防止、早期発見が教員の負担軽減につながると気づけた」
- 「サイドワーカーの重要性を感じた」
- 「平素からSSWが学校を基盤としていかに活動し、教員と共有するかを学んでいきたい」
- 「すべての児童生徒を対象にすることの必要性を知った」
- 「学校だけで抱えるのではなく、YOSSを使って外部機関とつなげることで問題が解決しやすくなる」



講座の様子

### 当該年度の到達点③-4

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(4)導入アプローチとネットワーク構築・プロセスモデル設計

成果: 令和6年度は、令和5年度のコンソーシアム総会時に提示した4つのワーキンググループ構想の実現に向けた取り組みを進めた。その一環で、ネットワークのオープン&クローズ体制を明確にするため、オープン部分を「プラットフォーム(旧 コンソーシアム)」と、その傘下で会員が深い議論を行う「分科会(旧 ワーキンググループ)」に体制を改めた。分科会のうち「社会実装」については、子どもの社会的孤立・孤独の予防にCSV経営の視点を導入するために大阪公立大学 経営学研究科 小林 哲教授との連携・議論を深めた。また、「サービス・ソリューション開発」「ルール制度」については、関心を持つ会員がニーズや進め方を検討する場を設けることとした。これらのニーズを探るため、12月には「こども未来創造プラットフォーム キックオフシンポジウム」を開催し、産学官の参加者が本プラットフォームに期待する事項をアンケートにより収集した。また、シンポジウム参加企業を数社訪問し、詳細を聞き取った。

### 当該年度の到達点③-5

(目標) 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

実施項目3-(5)障壁を乗り越えていくプロセスの明示

成果: 令和5年4月に施行された改正個人情報保護法に対する自治体の対応について、新たな条例の制定内容を近隣自治体から順次、網羅的に調査を進めた。その結果、教育委員会が各学校において条例の実施機関と規程されていることが多か

った。これまでの個々の条例にて定められていた独自事項が残存している自治体も多く、また、個人情報を提供する際の審査手続きについても前年度を踏襲している自治体もかなりあることが判明した。現在、大阪府下の自治体の個人情報保護条例などの調査を実施し、個別事項についての整理を行っている。

## 改正個人情報保護法と地方自治体の条例



### 課題

- ・スクリーニングの対象データは個人情報保護の観点で、第三者提供が困難
- ・個人情報保護法の改正により地方自治体の条例も改正、独自の規程の有無や内容を調査

### 改正個人情報保護法

- ・地方自治体の機関および地方独立行政法人に**国と同じ規律**を適用
- ・個人情報の定義について、**国・民間部門と同じ規律**を適用
- ・個人情報の取扱い、個人情報ファイル簿の作成・公表について、**国と同じ規律**を適用
- ・これまで条例で定められていた事項の多くは、**法律および政令などで共通ルール化**
- 審議会等の役割は個別時間に関する審議から、定型事例についての事前ルールの設定や、制度の在り方に関する調査審議に移行

### 条例の調査と対応

事項	大阪府下	大阪府以外	対応案
(1) 法と施行令以外の独自の規程無し	河内長野市、交野市、 <b>能勢町</b> 、 <b>泉南市</b> 、 <b>岬町</b> 、 <b>阪南市</b> 、 <b>和泉市</b> 、 <b>東大阪市</b> 、 <b>柏原市</b> 、 <b>箕面市</b> 、 <b>豊中市</b> 、 <b>吹田市</b>	<b>南城市</b> 、 <b>与那原町</b> 、 <b>四日市市</b> 、 <b>神戸市</b> 、 <b>沖崎市</b> 、 <b>大分市</b> 、 <b>東広島市</b> 、 <b>豊見城市</b> 、 <b>亀岡市</b> 、 <b>豊田市</b>	自治体、教育委員会、学校からの委託契約
(2) 議会に関する条項あり	<b>豊能町</b> 、 <b>摂津市</b> 、 <b>守口市</b>	<b>沖縄市</b> 、 <b>甲府市</b> 、 <b>名古屋市</b> 、 <b>みやぎ町</b> 、 <b>彦根市</b>	自治体、教育委員会、学校からの委託契約
(3) 個人情報ファイルに関する規程あり	<b>河南町</b> 、 <b>太子町</b> 、 <b>千早赤阪村</b> 、 <b>富田林市</b> 、 <b>福岡県</b>	<b>青梅市</b> 、 <b>奈良町</b> 、 <b>甲府市</b> 、 <b>浦添市</b> 、 <b>那覇市</b> 、 <b>南風原町</b> 、 <b>宜野湾市</b>	自治体、教育委員会、学校からの委託契約
(4) 情報公開に関する規程あり	<b>忠岡町</b> 、 <b>羽曳野市</b> 、 <b>茨木市</b> 、 <b>高槻市</b> 、 <b>摂津市</b> 、 <b>大東市</b> 、 <b>東大阪市</b> 、 <b>柏原市</b>	<b>宜野湾市</b>	自治体、教育委員会、学校からの委託契約
(5) その他の条項あり	<b>大阪市</b>	<b>うるま市</b> 、 <b>名護市</b>	個別に対応

(4) プロジェクトのリサーチ・クエスチョンについて明らかになったこと

#### Q1. 子どもの社会的孤立・孤独に至るプロセス・メカニズムの解明

今年度は昨年度明らかにした結果をもとに、子どもがどのようなプロセスを経て要支援（孤立・孤独）状態に至るのかを因果関係を含め明らかにした。その結果、「複雑な家族関係」が社会的孤立・孤独に至る出発点となっており、社会的孤立・孤独に陥らないためには学校での生活や友人関係、言葉遣いを良好に保つことが有効である可能性を示した。

#### Q2. 評価手法としての学齢版スクリーニングツールの開発

昨年度の分析結果をもとにYOSSを改修し、項目の入力によりヤングケアラーを示唆することができるようになった。

また、教員によるスクリーニングとタブレット教材から得られる学習データを連携させ、双方を活用することが、子どもたちが抱える課題を捉えるために重要であると明らかになった。

運筆データから睡眠量がある程度予測可能となったことから、運筆データがスクリ

ーニング項目として有効かどうかさらに検討していく

**Q3. 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発**

スクリーニングシステムが社会に受け入れられ、かつ広がっていくためには、スクリーニングシステム自体の精度・機能強化と同時に、スクリーニングに関わる人材の育成やスクリーニングが広まるための基盤づくりが必須である。そのため、今年度はYOSS®活用研修とYOSS®マイスター養成講座に加え、養成講座の講師を担う人材育成のためのYOSS®トレーナー講座も実施した。今年度実施した講座内容を精査し、次年度はより効果的な講座を実施していくことが必要である。

また、今年度はネットワーク構築に注力した結果、こども未来創造プラットフォームキックオフシンポジウムを介して、職種や専門領域を超えた多種多様なバックグラウンドを持った人々の意見を集めることができた。これらの意見を参考に、プラットフォームの運営方針を検討していく。

(5) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・現在の進捗状況としては概ね予定通りであり、AIモデルの作成についてもほぼ完成しており、今後は継続的に学習用データを学習させていく予定である。また、子どもの社会的孤立・孤独のメカニズムの理解についても、分析は概ね終了した。さらに、社会実装についても、こども未来創造プラットフォームをベースとしてさらに前進させている。
- ・次年度の課題としては、YOSSをより良いスクリーニングシステムとして広めていくため、ユーザーからの意見や要望を集約し、スピード感を持って改善を図っていくことである。

**2-5. 会議等の活動**

年月日	名称	場所	概要
令和6年5月2日	山野PJ-MTG	オンライン	プロジェクト内の各グループの進捗確認と今後の予定について共有
令和6年4月 ～ 令和7年3月	YOSS®活用研修	オンライン	YOSSクラウドサービスを効果的に活用するために必要な技術と知識を習得するための研修
令和6年 8月3～4日	YOSS®マイスター養成講座	大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス (堺市)	YOSSの効果を最大化し、教員の負担軽減と教育現場における諸問題の改善を推進する「YOSSマイスター」を養成するプログラム。
令和6年10月 3日	YOSS®トレーナー養成講座	大阪公立大学 中百舌鳥キャンパス (堺市)	YOSSマイスター養成講座の講師を担う人材の育成を目的としたプログラム。
令和6年 11月30日～	YOSS®マイスター養成講座	沖縄県糸満市	YOSSの効果を最大化し、教員の負担軽減と教育現場における諸問

12月1日			題の改善を推進する「YOSSマイスター」を養成するプログラム。
-------	--	--	---------------------------------

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

これまでYOSS®クラウドサービスは累計28自治体・187校以上の小中学校に導入されており、未導入の自治体からも継続的に問い合わせもあることから、導入数は今後さらに増加していく見込みである。

### 4. 研究開発実施体制

(1) スクリーニンググループ (大阪公立大学 現代システム科学研究科 山野則子)

項目1: 孤立・孤独に至るプロセス・メカニズムの理解

項目2: 学齢版スクリーニングツールの開発

(2) 項目の分析

(4) 子どもの学習データの分析とスクリーニングシステムへのデータ連携

項目3: 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

(3) スクリーニング実施者養成モデル構築

(4) 導入アプローチとネットワーク構築・プロセスモデル設計

(2) AIグループ (大阪公立大学 情報学研究科 中島智晴)

項目2: 学齢版スクリーニングツールの開発

(1) 子どもの主観も含む項目から支援の方向性を示唆するアルゴリズムのアップデート

項目3: 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

(1) AI機能の実装

(3) センシンググループ (大阪公立大学 情報学研究科 黄瀬浩一)

項目2: 学齢版スクリーニングツールの開発

(3) 教室内における子どもの行動データの取得と分析

(4) 情報セキュリティグループ (大阪公立大学 情報学研究科 宮本貴朗)

項目3: 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

(5) 障壁を乗り越えていくプロセスの明示化

(5) 評価キャパシティーグループ (東北福祉大学 総合福祉学部 大島巖)

項目3: 子どもの社会的孤立・孤独を予防するAIスクリーニングシステムが機能する社会的仕組みの開発

(2) スクリーニングを進行できる人材養成講座のモデル構築

## 5. 研究開発実施者

### スクリーニンググループ (リーダー氏名：山野則子)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
山野 則子	ヤマノ ノリ コ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	教授
佐伯 厘咲	サイキ リサ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	シニア研究員
黄 健育	コウ ケンイ ク	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	研究員
神谷 直子	カミヤ ナオ コ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	プロジェクト コーディネー ター
村上 佐和子	ムラカミ サ ワコ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	プロジェクト コーディネー ター
松浦 孝範	マツウラ タ カノリ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	研究員
駒田 安紀	コマダ アキ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	特任講師
田中 佑典	タナカ ユウ スケ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	大学院生
三枝 まり	サイクサ マ リ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	大学院生
橋本 麿和	ハシモト マ ロウ	大阪公立大学	現代システム 科学研究科	特任講師

### AIグループ (リーダー氏名：中島智晴)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
中島 智晴	ナカシマ ト モハル	大阪公立大学	情報学研究科	教授
藤川 拓海	フジカワ タ クミ	大阪公立大学	情報学研究科	大学院生

センシンググループ (リーダー氏名：黄瀬浩一)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
黄瀬 浩一	キセ コウイチ	大阪公立大学	情報学研究科	教授

評価キャパシティグループ (リーダー氏名：大島巖)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
大島 巖	オオシマ イワ オ	東北福祉大学	総合福祉学部	教授
藤本 優	フジモト ユウ	大妻女子大学	人間関係学部	助教

情報セキュリティグループ (リーダー氏名：宮本貴朗)

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
宮本 貴朗	ミヤモト タカ オ	大阪公立大学	情報学研究科	教授

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
令和6年12月20日	こども未来創造プラットフォームキックオフシンポジウム	こども未来創造プラットフォーム	I-siteなんば	111名	こどものためのより良い未来の創造に向けた、産官学によるプラットフォームのキックオフシンポジウム。

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

#### (1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・ (タイトル、著者、発行者、発行年月等)
- ・ 学校版スクリーニングYOSS実践ガイド、三枝まり・木下昌美著、山野則子監修、明石書店、令和6年4月発行
- ・ 「つなぎびと」大阪公立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所発行

#### (2) ウェブメディアの開設・運営

#### (3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ (シンポジウム等の名称、演題、年月日、場所を記載)
- ・ 日本学術会議・公開シンポジウム「価値とイノベーションの創発による福祉システムの構築」、「総合知による子ども未来創造・価値とイノベーション創発の実践的課題」、令和7年1月11日、オンライン

### 6-3. 論文発表

#### (1) 査読付き (1件)

##### ●国内誌 (1件)

- ・ 林萍萍、山野則子

「コロナ禍における中学生の長期欠席の関連要因に関する検討—生活習慣、家庭環境、心の健康を中心に—」

青少年教育研究センター紀要(13) 23-32, 2025.

##### ●国際誌 (0件)

(2) 査読なし (1件)

- ・ 山野則子、駒田安紀、橋本麿和、佐伯厘咲、黄健育  
「児童生徒におけるスクリーニングを活用した課題予防の可能性」  
社会問題研究(74) 43-53, 2025.

**6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)**

(1) 招待講演 (国内会議0件、国際会議0件)

(2) 口頭発表 (国内会議4件、国際会議0件)

- ・ 佐伯厘咲、山野則子、橋本麿和 (大阪公立大学)  
「経済的困難さを抱える子どもたちが示す兆候－自治体Xのパネルデータを用いた分析－」  
日本子ども家庭福祉学会第25回全国大会・東京都・2024年6月29日-30日
- ・ 山野則子 (大阪公立大学)  
「研究と実践の往還をどのように進めるのか」  
日本学校ソーシャルワーク学会第18回全国大会・埼玉県・2024年8月24日-25日
- ・ 橋本麿和、山野則子 (大阪公立大学)  
「子どもが社会的孤立・孤独に至るメカニズムの解明」  
日本学校ソーシャルワーク学会第18回全国大会・埼玉県・2024年8月24日-25日
- ・ 山野則子 (大阪公立大学)  
「スクリーニングと公衆衛生のブリッジング」  
第83回日本公衆衛生学会総会・札幌・2024年10月29日-31日

(3) ポスター発表 (国内会議0件、国際会議0件)

**6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等**

(1) 新聞報道・投稿 (1件)

- ・ “子どものSOS” 早期発見、教育課程新聞、2024年4月15日

(2) 受賞 (0件)

(3) その他 (0件)

**6-6. 知財出願**

(1) 国内出願 (0件)

(2) 海外出願 (0件)